其蘭叟句集

下

へ 5
5626
2

門へ
號 5626
巻 2

其角發句集

秋之部

坎窩久蔵考訂

文月や六日も蚊屋の中

詞書略

空や蚊帳七夕羅樹

為ゆゑ

宵焼の舟志ゑんとす

父の郷しきをんのやるくまるり所さ

ゑんいるるこうこ記會ふ

此句を中ゆれば一折るるほ

昭和十六年一月十一日寄贈
尼野貴英氏

いなを告げる妙威の御あり方を表す
秋の月風を分て表をくまなく式
格技亭柱の
乾や兌　坎　震　離　艮　坤　巽
元や妹子めりを表す山おろしと虎のこゑへ
下字自然ままにくくを弥こと立前めて
妹良話隠林
雨冷て羽織や春の暮なる事
ゑるをひらりをほしき娘の子
七夕や美しくなる入く　笛をきく

星合や　此の年疫病流行つゝ
御あるや　山里りもし　雪分もなく　歌を見む
御合や　女郎花　歌を見む
星あるや　あるや　あるる川　なよるる言葉
ほし　河原や　人　なる　花
北殿年　御りる
御あるや　雙林塔の　鈴　なる
九腰　治郎　笠　星
無　秋　つ　追へ
二星　清　年　十五

雨後

静かや　石垣あらし　芝橋も
さらさら流る　鳥羽の道　夕かな秀
露橋や　まゝ川さゝ　宇治の星姫も
ちらちらや　丸太流る　亀屋　天の川

新居

塀捕　かきくらべや　銀河
あゝの川　ゝ　あ　ゝ　一ちゝ
丈化生
ゆゝゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　天の川

指買　ゆゝ　ゆゝ　流る　あゝ　ゆゝ
大切　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　天の川

素堂　ゆゝ　七十七歳の賀歌　炉七夕

星の　ゆゝ　花火　鈴　くゝ　ゆゝ
妻星　ゆゝ　ゆゝ　一くゝ　ゆゝ　女ゝ
ゆゝ　ゆゝ　賀　ゆゝ　ゆゝ　女房
菅丸　角　亘　星　玉　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　二挺立　帰掉
贄　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　星の

女ら屋のんとくく笹を電ふ
伊ら我七夕の手向にもとく
蓑ゑ川の面 味噌こうあせく 蟋蟀
七夕歌尽しの内
川水の数こうくらうも 紙ふ傘
三遷のとくへよ 慣ひく七ツよりけり
姪を寺へのうをくれて一はありく七夕
ふ我ものうをを 吟くかうこて
文月や 考こうふも 母 孔息
井の素きの我 桐 一 素の邨

水吉 蝶 ひら素ふもちのく おくそ素
肅山子 ぬりや 笹の面よ
きしうぬ 桐の一茶 也 笹孔ふ
茶屋に水のきく 位ふ素偽をとて
手拭 孔 笹 ふりうれ 孔と素ふ弐
銭肅山子
この素ふく待伊子 簾もかうし 桐の妹
素ふ弥や 風 きく 猿 一 紫 川
孔ふ素ふ笑ふふ 内 素ふ 奉りて
あきうぬ八仙洞 猿 我八のちの邨

新貝平吉郎氏人や贄帽子
あさ凪や[illegible]ぎはよりく猪口の物
胡かぬ[illegible]ぬ[illegible]うへまきしやゆれそのの
ゆきこのおやら〜見む人無弁 拾子
さゝさ波出けれこうけ物の讃
新このはや穂刀出るまく這あの新
葉刀きれるあ凪の二葉れ
あさ凪ぬ川宿出し御使
雑煮く雷胡貝ぬいき新ら〜
ゆきかぬ孔日陰まるあり中老女

暮蓬ぬ凪を
あさこのはぬ茶ちなるの夕新
乃ぬ新妻出ぬ恨む 槿垣
市隅
西側牙艶竜なうれや 三日の月
美女美男 灯新よてる寺 迷ひう新
増上寺晩景
る春ぬ 修竜使出 芝しる垂
見る人も下ハり 灯新牙 四りきり
遊山火を 葛の葉見きや たり逐

この[illegible]かのなるさ玉ゐ夕雲う郎
たるもよ借金乞ゑなりけゑ
右二句文有畧
玉まつり門の乞食せん　親[illegible]
きたるべし人や嘆の[illegible]
掛絵[illegible]ん系[illegible]抛し傍の袖[illegible]
物りを蔵し[illegible]の花授記品の有無價
宝珠と読をのゑ銭あり[illegible]
衣[illegible]銭[illegible]
掛絵やこゝ乃あ[illegible]

掛絵や[illegible]
送り火や宮[illegible]
測り[illegible]
生霊　酒[illegible]
侍坐
さし鰐も廣間年羽をのゝ[illegible]
[illegible]
人[illegible]
鰐切[illegible]
釈も[illegible]

陀羅尼品

[illegible]

分郎原

[illegible]

小娘[illegible]

一[illegible]

[illegible]

躍[illegible]

[illegible]

伊勢の[illegible]

千之丞黄葉[illegible]

[illegible]

玉川の水筋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上手[illegible]

[illegible]

[illegible]

壹両ゝ也火まゝもあるさひのりて
扇的ゝ火ゝゝさゝ扈後の能
小屋涼し花火ゝ箇のゝゝゝ
物さびもゝ逆櫓も屋ゝ也火賣
稲妻やきのゝ雲ゝし ゝゝハ西
妻ゝおれゝ後ゝみもれ雲ゝ人有
いゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
稲妻や朝暾ゝゝれゝゝゝ又
齋院ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
和ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

周信ゝ瓢の画ゝ
ゝゝゝゝも一升入ゝ ゝゝゝゝ
石蔵寺對僧
ゝゝゝゝ茶瓶やゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
宇治山水
川ゝゝゝゝ茶ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ加藏
中のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
幸清ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]里小野の忠宗朱まのり[illegible]
[illegible]雨[illegible] 尾[illegible]のよ 胡[illegible]を
[illegible]一の[illegible]や 波[illegible]
[illegible]園[illegible]
[illegible]取よ 富士の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
たのしし[illegible]結[illegible]
夏[illegible]
[illegible]子の[illegible]

[illegible]
[illegible]
義[illegible]の[illegible] 善[illegible]
[illegible]を莉て 西 [illegible]年秋 借[illegible]男
[illegible]
[illegible]蛤[illegible]
切 悠亭[illegible]
日[illegible] [illegible]傘[illegible]
[illegible]松亭
獅子[illegible]の胸[illegible]

ねふり也ハ雑ふ肉食をまきさ子　康

仙石玉芙公清加苗子餞別

秋きゝぬ傘すゝのみやまふし　鞍

専吟庵

藤まくらむすひ分きや　ササ　卉

二間茶屋にて

白馬の尾毛吹とられすゝきれ

君おもしになれしる子かや茶ちるき

在原寺にて

僧口キ乃声のつの耳むすふ人　芭之排

井筒を略しつゝ画子

いろれのゝ外輪にむすふ落ちれ

角文字や伊勢の野羽の落をきき

せなかき松

蛛の網や落錢かゝるく　小松原

二見にて

岩のうへ神風高し　世の芭

沾徳餞別

点をの尾人の宿一つ雑むすひれ

朱系の姑凍　落きす　女郎花

遍照の瀆
偽ひよ 鞍 かへりく女房茶
一和お義しるの事を
庶幾へ事何よ如何とそ敬逸
経冊のもとをとく迷惑さる
昔の紫乃あるれ色残ばうみれ
うれしとも見猿のさんのまんしめさけ
茶釜りくさへの掃除や白芙蓉
阿ろうへれ邑蕉庵のりてさきさう
さを我茶釜有花角をつくし亀

下十

蜀徒さを小屋の陳や 蓼ばされ
もしらし 伏睡ばさりもん蓼冬屋表
酢をもあり 陳乃蓼のさるさう
雑炊如松平さるさ 清閑寺
たさこ子ば 山田孔雀の夕にうば
発日さりうきくなるもう 烟子の角
夢と形りし 骸骨をとる 萩岩寺
蟹ものもの男の推つくこ小丹をのうや
西瓜ものの奴の蟹 乃 なこう紙をり
西瓜哈ものの 浴巾を安達う茶の達や

山蟻うまさ縫ぬ形や結西瓜
芋殘らるて雨を受風の奪ふ哉
芋畑の芋ゐるあやを不伏猪の跡
嵐蘭一子孫繁を祈る連む
芋殘子もそを我の妹をちうう哉
粥茶うの京
仇し蟹や焼りうとしの骨ちうう
吉田氏
唐秤も糸をくれあれ手向の形
唐秤を添うし皆や水見兼

芦の穂や解を解をやかひくをりもをむ
妓子百二前後悼く
打打よこうくやのこ蛛のきえ
蛍燈の加くを見てや蟬乃こう
二翁をいさ業を
を人生 鼻さんれ あなの塚
元文葬送場みく
一紙手 悼も 未夢も 脱う形
頬 摺や おもをぬ人手もしやて
元結のねうをさの形し 虫形

茱栗と伊勢路うちらく
故ゝも ゆかり長屋にすゝ此念
松むし尓 孤をとらんまても 友り給し
きむ月や 錦戯たくさらほりくす
乃らりすま 雲虫きの浅芽ゟ
猫にくられしを 蝉の妻ハまくくらん
まつ虫しや 松明さしへ蕗ハきつ母
蜻蛉や くらんまつ川まる三日形そく
山の蟷螂をやんまうくんや 破連笠
酒さんく 螽蟖 たく跡せん 草すりこも

酒買ありゆくら斗嘉の雁 孤ハ
一志ん古れ 妻ゆあまし 天川為
義すとえたる家まて まる人代 ほひきに
おちつきに 荷分ゝみや 下津雁
題 湯豆腐
叶との湯ゝ 雁戯 湯さぬ 豆腐哉
賺家すえ 張らくを 唐
大絃ハ 晒もえ 結ぶ有 落る
雁の腰つ 送れ 字から ふゆのか上
志ら雲すむ 数ハ 雁

冠里公はるかに祝賀りて
初鳥や臺八幡もれく百里持
品川も連よめるしるし 雁
自画
片足をやすめし小田の雁
詞書を畧す
陣中の飛脚をなくや屠乃夢
略ちくさしなりを略をしハ
江亀の略年這ゆゆ屋の那
順検ふをたるも百吉北多

むさぼる食はるれ
賜常や赤子頬張 吸ふ有
感徹和尚よ對す
そそ打や 鶉 衣年 玉たる
餞秋航
諸鶉 狗魚をまりをぬ 狼目如ふ
平家の裏を語る
のくり未く福原さるし 鶉
みつく乃 卍巾を人よぬをうり
木兎や百金をうり巾り玉

仁和寺の片山かけや　わらひ苑

秋葉禅定下山

かしこに杖を投しるかけ也

山茶花の戸にも宗祇まかりし柏

春澄にとへ稲負鳥しるしあり

小春の長斎

四十のし小原の中山　五十　ある

中村氏長夫婦連立て上京せし時

山なりも人残らしやむ　掠深これ

法師も都の法名かへりけく

廉の一首より小春のさんに

是すさを謂ふ法をほく花の人意

きせしかや猫き了息きり此なのれ

木辻にて

川たちの狭くまん記　男廉　にふ旅

小原女や紅葉くみく廉の尻

命拾ふ寄く春の年もかな也　梅葉堂

暮れ山　遠なせしかのもさ記

自画賛

さ越嵐也ねをもと年暮の侍あへせ

苔の姿よりも拙を縄なへ小田の穂
かしかぢ熟人八猿の声を約
さもらひこゝに無我の境の鶴の邦
遠州二股川をはるばるめて下り侍る
推河脇ゝの宗逆水大切所戦場
折擢年鑑ゝ
小いとゝや一ほの門
ほのゝしと湖仮めぬゝ根鍋
言雄めく
洲秋雲文覚我をこゝろをゝし

忘絹ゝうゝしゝゝゝゝゝ妹のゝれ
なれ山の宗二よ雲ゝゝあゝの雲
木兎ゝゝひゝゝ笑ひや秋のゝ
あゝのゝれ紅文のゝゝれゝ
青海や淺黄年ゝゝ昏
寂蓮
和哥の骨槙ゝゝの
あゝゝ尾上の杉をゝ
鑑素堂秋池
風妹の荷葉二扇

背面の達磨を画く
武蔵国みちの留守とこうへよ 蛛の風
秋山や 物もなれぬ 鞍乃うへ
相模川洪水落水接天
狼の 浮木 平の砂 あきの雨
あきの乃山 清水 傾 蛍光 武
野田玉川は西行上人死 城井あはし
渡り井を 為 なつかしき 秋の 西光
立石三回忌 智海師をしもるひく
三人死 ふるへ 物 めとる

子子 猫 武
酒 絹 切 間
あひ 庭 ささ 入
悼朝隻
此人年二百十日 亡
春日法 来
今 あ 結 春日
砧の町 妻 吼 犬 秋 迎
芭蕉庵の夜
墨染を 鉦 鼓 鳴

点取ふこゝろ懐紙のあくま
二毫不目をけしをれ 砧ふ邦
みの紙不へく
ゝめゝきゝ孫六兼義 志津屋兼
あゝ長者のりやあく
中の間よ寒ぬゝ 歳人ゝゝめゝ
和水紙宅
ゝい穂 紙ゝ仕義へゝ 碁ゝ紙
餞青流雑波
蘆刈のうゝを喰ゝゝきめゝ弐

雲の下ゝく
紙めゝゝ宿北庵ふや 茶の紙仕
美好ゝ 義やゝゝん唐ゝ紙も
弱曳や山ゝ巻てゝ のやゝ筈根
ゝゝ
甲製弱やゝ紙不へゝゝ 柳葡萄
眺めやゝ 函谷や ふ 縞ゝ追
重ゝ 桃を画ゝく
中桃ゝ ゝん も ゝゝ三るの月
紀川ゝく せえ

たつの弓 矢平地なるや 三日月
池水も 七夕糸あり 霄の月
雷雨可如 遠の画は
傘持ハ月は 後々すまじ也
小々ゝゝ雨あり 死月や 明石潟
水想観の弦平
家出々々々々 ゝゝゝゝゝ
蓑ゝゝゝよ 時宗起々々の 色
あつゝゝゝ
更ゝゝ 祢宜の 鞋や 杉乃月

月出々々 坐ゝゝゝ 小舟ゝゝ
宿々々 東浅々々や 遠の月
維摩の 鬢
山死も 大衆なり 原乃月
張良圖
胷中の 兵 ゝゝゝ 子ゝ死月
布袋死月を 掬ル 絵ハ
有々々なき 水の月や 瓜ハ 文
閑倚橋
猿 這ひ ま 橋死つ 死

寺ぬしの葡萄膾ハ美よりうん

小野川検校より餞

入月や琵琶を借ふをきゝうん

ゆかしきの猿の歯ぶし峯の月

契不逢恋

国の火ひのこの外坐敷や独のかな

扇中制禁好

搖桁の串海苔をつゝんや月の友

遊子

いまゝなる松のゆゝしも浦の月

序歸や弓弛ばるゝ暮の月

玉津島帰望

ゆゝしの八みつ更井の月を賞ぬ

燈杭の火ぬつきやれき月夜哉

庵丁の片袖くゝしるの雲

月のさゝゝ詩の舟ゝ山市ゝ川武ゝ

岩柄文臺之記

ゆゝ月も影のうし形橋ぬ拘目ゝ

仲麿画賛

月新や舌を忱よまく三笠やゝ

月をこのられ載路の小者木芽の下安
るまなりぬ　波よ茶守る家風
滿百
あり所島の屋尔なる甲ゝ毎孔氣
在明や待ゝなるゝ孔君と伯父
所思
ゆさらしも公はらしや十四日
待宵や時ゝ二見へ行ゝ有ゝ孔
木母ゝ有家の會ありゝゝゝゝ
烏帽子屋八島屋きてゝまゝ孔月

雨
弱ゝめゝ釜買ゝりゝ梅乃ゝ
川ゝゝ冪屋八時ゝ月ゝの月
納屋ゝ仮雨ゝゝ秋てけ冪つゝ
含秀亭
富士ゝ入日ゝ孔ゝ様やゝの月
琵琶ゝをよむ
十五ゝ酒ゝ孔ゝ出ゝ婦の月
所思　高めゝ
いゝゝゝゝ三ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ

汐汲をうく えて見くるあまの月
朝ぢ出ぬ 行方よ生れくるあの月
まくらの下 牛のくさ枕ひのくれの月

文畧

住世ぬ 老うかい あり きくれる
酒くさよ 鼓うち 来 梨子のつき
ぬ 素子の 弦よ
おりの事 なもうつ を 誰 月見 舟
得盤無酒
無我画 く 産 這 ふるる見 武

人吉や 月見しぬ ふ しく草
風雨
雷 手 揖 小 なだ 月見 舟
布袋の画よ
月 も 杖 つ 小舟
平京落の遅風
宿 れ 月見 武
一休の狂詠自画を写して
律師沙弥 剃 月見 の

上交語上

平家なら太平記にハ月も見ん
娘にハ丸をきし絶を月見かれ
　僧と出あひのしく
小使斗起らも月哉　見さり色
名月や魚のうんに　松せれ一の事
名月やあく住吉紀　行く因志ら
名月や居酒のまんと頬かふ里
名月も何や祢をさらむる出う雀
名月や金らくふ子の国せい友

名月やかく梅くまく何　袖几帳
　三日糧をつもとめなに
めいきやや十歩に銚を掘そろう
紫にさし落くれ大平
名ある紀皺ふるひかえ紀　心世話
めいくがやら人を抱にて哉　膝かしら
　鐘壱容船
めいきつや御堂の太鼓うまて出
名月やおとしも筆に毎しん口
新月やハ川を東しのなかりし山

閏十五夜　前の十五夜江戸にあり名れハ
市番所ハ照月を見く後河と章
待乳山
と雲満空掉さん　ふるん年の名鳥
松前の君より中あるる
こさ吹く大根ふく　妹の月
宗因ら光月をうるの句をとりく
芋ハく　凡僧　松さん　二百　貫
君らいひきんと云ふてくるあるく
地ふとし　青豆ら　独さんつる

いさらひや竜眼肉のつるうる詩も
十六宿ハ儒者と名ふし　梁なり
あさうの童ら扇ら画ら
栗守の　栗の月に
山川や　魅ら　なこの
明の栗ら　袖ふき　松の　式
栗　黄の　関へ　栗　郭
あひの上　後　長　即ら
三栗のうるうる　角　彼
生栗を　つる　山路　の

如是杲のこて行を
二子山ふた子ころも飯 栗の一つ
泊瀬女手柿の志ふさ我思ひきり
嵯峨遊喰
清滝やしぶ柿さはそ我らに
霧香月灯を憐
古寺や法師のふまんさえ後に
御府内番手揺立て入に
たゞ人に我拭ころも 木渋楠
御所柿やまたの道なきさめぐけさの霜

問来かし椎の里まん 松茸より
月日に栗蒔 葡萄あつきの甘露有
子籠の柚に菓子のかし白ひかれ
南天やおのか実海れ山のおく
南天の実をつくしや 匪 芭
南天や妹我の戸へれ小倉やま
子なすきとをあけく夫婦子
あかりに葉八思ふ葉子そん 秋菓
種竹三竿
余淋しさ許由がひさごまさきし

草や古寺のあとの苔　眉つくる
草枕　山吏　病あるさま　虚骨　病
たきぎうりや　鼻乃先　なる氣ある
松吟居の庵　さの磨の土を取り
うつしく落葉　松ばかり　そまく有
りくなれ中　ふ志　和ける有
りそなえて　都素　土や　末乃子　狩
松の香　素　志　吹なりはくく　草
鳳来寺の山　北　道を　る的
冷泉の珠　数　有つ　まる　草　ふ氣

松の葉ふ　火先　あま　落葉油
川苔　北香　ふ　水
稲葉ふ見る　女待　川
ゆくこゝや　敷　あま　菜の中
あ　臺ふ　稲干　言　手織　氣
いつしく　ゆる　手　天井川
稲塚　戸塚ふ　田守の郷
あくまの　卵　うま　蕎麦式
早稲酒や　稲荷　出す　焼ものを
是あふ　亭主ふ　酒かな

太郎三郎の目をちうく
かゝる出さん貝ふ めうちす 新酒式
横ル追悼
六徹を手向耳とうや 新稲
くてこをやうたれまくせん蕎麦畠
稗蕎子 北斗をねうふひうふ
茶のうしきたるこ沈や新豆腐
塗物しるし雨雪ちぬ出る約山
鹿もみうしん鳴子鬼
七十乃腰もそうさうなるこう

雞の下茶ふつうきうり者のうく
いきめ者の庭や徒摺 菊の色
ものうちの 數つもれくく秋くの茶
駕ふめまて沈詩の菊を 三時うル
ちうしなる 荷汁ゝ従者短冊ゝ
古器の手ふ小ゝをやうの菊
きのきく小僧くちる和汁き好
きく秋香や 瓶ふ 水不迫
古雞ん碁石ふ なうぬ秋くの茶

雨ふる地に這ふ菊を先おもん
こゝ誰よりの形ろうせん　袋きく

畳菊

形くふく　答ふ後の　かゝ種ろ重
素堂殘菊の会　曾よ
世らくよ十日の酒乃　亭主あり

茱萸

菓子をきる　形しまつるも形のり意
病起　千山ろう　菊を拉く
夫母　衣のうし　絡我　押や　瓶のきく

三島年ろく　重陽
門酒や　ろる屋　記ときの　菓子を
宮川さん　ろうよ　酒　送らきゝれく
重箱よ　花　なを　あきゝ　ゝの　形　菊式
みちをのりの　ふなあ　ゝきけるよ
いうく我　七百　形　師走　菊　年へ　菓
休　花の　ゝ　ゝ　形　ゝたゝ　ゝ　ゝ
出世者の　一り　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
時服　菓　菓　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　笆　ゝ
ふゝ　形　ゝく　歌人　形　名字　ゝ　ゝ

柚の浦しつ貝つくるよ
白菊は貝殻実ホをん種乃うら
笠きゝゑ西行の圖ホ
葉をそゑて日ちされゝ芳しや
女の子は根ひくまうけゝ人ホ
かよ保ホうつふ蓋をん妹この殿
紀を園十日のきく花ホのてうう
震夏の殿りまかもな　菊　膾
未曉嗟
絡つまよ　ほるに立くゝ見ゝ葉ハ

翁をひ葉の交も有　位をうう
蕃色のもれ蕾にうやし園の菊
子家の絡入百菊の條情
葉うゆやきく示詩人の質（カヽキ）をくゑ
柚の色や起あうりゝれ葉の雫
きくゝ花酒蒲萄のうゝよゝうう
門菊風鼎日十三田忌
菊の雫やたうふうれぬ籠さし
九月九日扇を指ひゝゑ人ホ
きくやゆも星ゝ月輝く　礼あゝの

菜花餞別

友成氏に菜を使て播州まで
まねかれ[illegible]の菊

産宰坂くらべ

紅葉名所とゝ[illegible]なるうり竜
沈くのこゝろ[illegible]やはり[illegible]きく流るあり
れ鼻[illegible]くさ免なりけりきく 艶

みと月見[illegible]
[illegible]ぬい雨元政の十三夜
うま[illegible]さや江尾く三徳乃十三夜

[illegible]茶師[illegible]の十三夜
菜所[illegible]
後[illegible]月
のち乃月 雖
白鷺の蓑
いつまも[illegible]
後の月 松や
[illegible]
家こゝろ木[illegible]
[illegible]の月を栗[illegible]

住の江や　芦荻ゝて浦さむ　月
白玉の　等閑なる　滝のつぶ
やくもの　秋の色　抜きのき　木挽早
漬蓼の　種より　月出　あ秋の
笈菓子　古くさき　月見哉
清辻宮の　良材　ゝ　ゝ
大工達の　久しき　歌や　秋さむ　緑
御舞　まゝく　奉りて
市穂　ゝ　髮　ある　ゝ　かさし哉
内宮法輪の　遠拝　なる　ゝ

男の秋や　赤子もまゐれ　神路山
外宮
日ゝ　穂ゝ　古殿　蓼　の　ゝ　哉
ゝ　ゝ　小判　ゝ　菊の　花
ゝ　清川　ゝ
ゝ　祭主の　凍を　送　ゝ
二月堂　ゝ　ゝ　七日　断食　僧
堂の　ゝ　ゝ　行　声　ゝ
日の目見ぬ　氏　帳　ゝ　桃　ゝ　那
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

戸越山庄

むらゝ紅葉ふ荘の実をはらゝ白うれ
谷へつゞき荒れまさりたの紅葉かり

三条橋上

長脇いみやこはのとこす紅葉この頃
りゝちよはたらをへゝる酒のかん
山姫さん深ゝの流をゝゝちこれ

笹根

杉ゝへ乱るゝ村紅葉
りゝちらんる山家の子達うちを山

竜役所紅葉ゝなりさゝの山
りゝもしゝ胡蝶の招しいそれ

大山

腰押やつゝ岩根さん下りゝち
山ゝゝこゝ形ゝ面や初もゝ地

新殿六間港

ゝゝのぬ葵のたゝ先や下紅葉
事のつゝれ世やさまりて岩よつる
木葉の食蘿を狩さんあしきか
この風情狂言ともと葛ゝゝち

うゐの山乃孤よ
笈の角拵ゆゑ菖蒲かな
霍乱岡吉樹のもとにて
供奉の扇やちる紹杏
遊弘福寺
末犀や六尺四人　唐
うゝ枯や一ツも餅くふうゐのまま
餞お長上京
うゝの老よ　花のたりとや　女ち純
白扇倒懸東海天くゝ旬をつよ

仕頃ゝ射くゝよ拵くゝ
伝雲の西ゝ平ゝ山ゝ亀や　普賢不二
同房の茶屋孚兄生お笛を好くゝ
うゝうゝ秋惜く
ちゝゝゝや笛ゝゝゝゝゝ平ゝ塗足　履
見し月や六ゝゝゝ純く　九月　尽
吉野山ゝゝゝゝゝ
頼ゝゝゝ月ゝゝゝ　九月　尽
怨国離
傾城ゝゝ小ゝゝゝゝゝ　九ゝ尽

厂廐虫とぞのりぞかく〻穢ゐ者

九月尽

蘇ぬ和松散為のうち妹を師走哉

冬之部

神無月ふる〻花有まり色き

ゐ物や祢宜の伺治の祢無月

玉津島めぐ

住吉居年中おくなり第まつな

高野めぐ

卯塔ぬ多居ぬ也まつも祢無月

京有八紙園清水へ

揚弓ま

神代桜　酒匂を橋し来よりの
数々の留主居なりの　大社
あまたきけと時なる歌乃緒の奉
幣かな手片日のうりの如もしらし
志々ゝゝ　蔥臺　ものゝ　柳

遊金閣寺

八重ゝ桜　楠の板戸我りまゝれ
叢をとゝすて　すゝめ夕時雨
動々志々通　三論の近き半ゝ
釣桜　夕日ものゝれ北志々通

芭蕉翁病床

吹井々甲　鶏我まゝうん時なる
鉢猫の引　志ゝ　志ゝ　我ゝ
時なる疲れ　私の物干　かゝり
時なる川　志の子にあ　酒のうんゝ人は
志々我　酔やのゝ　動ゝ流
當麻寺　巣の流れ
小　志ゝ人を　山ゝ
松　我　見ゝ　志ゝ我　の
三天の　我　河の　志ゝ

本多紫州公より侍坐しける扶村雨と
しぐるゝ蝙蝠の鳴き発句をのこめるに
蝙蝠や拉を拾ふ一ふくを
守山の子まりの枝背鳴る
蔓ちりつゝんたくぬ芝居動る時
笑ひ消れ朱長さ新しく
秋時雨まくしぶ糸なりし雲安二の
今慈を赤くふくしぶ阿連ふくし
國阿の行
泉山八是へ弦ふくく時雨の那

ふ秋ふ加ふさ紀の書
赤くくくぬ阿ふし剛雲ふ松
阿ふくるもくく人をふ出を時白武
時ぬ阿ふく茶中二秋ふ赤くを式
松茶のすふふをふる霊ふ
ふを式ふ翁孫宮の記ま
なきかふを紫糸ふくを拾尾武
四年忌ま 三句
赤くくくぬこふを舟海を墓とのを
七ふ赤くふ赤ふ紀ふり小雨ふくを

辰霜や風尾の印出でて乱よりも
遠ざかるや自刺るる家水の足

矢さき畧合

風よ世界幻くまぬ栗
こたのしくなりぬ地獄のうつを見
さらしや神くく蓋き山ぬるれ
風年氷蓋乱や狐出尾
木枯や側多ぬ小松蓋 蓋も 満
世翠し幻俳句のあるる
しるるもすぬ崖乃木蓋る

走くくくやけく 枯木の夕つく日
のうひさる三井の二王や冬木立
冬木立いのうれしや山のたくまれ
雪山のくちめく
かりきりの尋常有死ぬ 枯野うれ

画讃

松一木乞食の粉蓋の かまぬ形式
拾人やあくこのけるよ 冬蓋ゆく
芭蕉翁を見送りく
冬かまぬ 居くくく途や芭くくく聚

三日月のちらく見はしら雲　猪弐
御室の霰ふく法流頂戴の丁寧さよ
旅衣の下紐ゆるしん女郎と云れ
雲雀と鳴粗文は宝らふ　枝打　菊雄
くらきめの代々乃ゐのこまつりたる
帰花その尾ちりのん起しるそれ
生出新五郎上京
柿の木乃扇ゆらふ香　深雪　蕉
坊主小僧来の見送り
坊主小僧小僧来坊主と　帰花

口切やさつ乃流るゝ序　線　苗雄葡
焙算や女はをらふ見　金　鈴子
親爺亭父七十の賀まで
小川亭信をこうたまふ　桐火捕
埋火は白湯ききりりく　重
うつし火耳芋や人見　薫子
埋火や土器このまゝ以来　鏡
閑居安慰
垂木露の燈鍬さねや　麻生
麻布行や巨燵ふとんのさめぬうちら

火燵のうち森梦子三葉を枕とし
用防とのちも戈あるを人めく海事行
ゝ一生非なるひちきとめて板倉
ものしやうもの代中ゝ紙紙指ひく
ゝ青紙ゝ紙を ものひうり
松うをや炉ゝ富士を焼 西茶 形
俗ゝ孤ゝ一種の散茶 茶味
ゝ ゝ ゝ
ゝ打蔵ゝ火鉢を幸北ゝ
忠度ゝ戻ゝ ゝ ゝ 火鉢ゝ

ゝ度ゝ ゝ ゝ
炭ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ焼ゝ ゝ ゝ ゝ
炭竈や 鉢木 茶井ゝ 新ゝ
炭賣や おゝ ゝ 鼻を
すゝ ゝ 煙 ゝ 猪の
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
炭屑 ゝ ゝ ゝ 木葉ゝ

新宅

乗の端乃小屋 形ゝ 岩俵

[illegible]かの一車 [illegible]
茶の幽居 岩の黒人を 俗名と
蛇のうつを貝を盃めく都名と
[illegible]
岩こそ[illegible]
[illegible]炭 剣る火箸を 斧せん 幽[illegible]
表[illegible]十九日 [illegible]
大[illegible]
酔 [illegible]大黒出ん 夕[illegible]
[illegible]板 小判なき[illegible] 夷講

岩義山や 都[illegible] 酒[illegible]
打縞 [illegible]
[illegible]寺 光信春[illegible]
源氏[illegible] 李吟の家[illegible] 姫子 [illegible]
福天の床机 [illegible] 仕切帳
子八衣裳 [illegible] つまなり 夷講
幻住菴 [illegible]
[illegible]
彩雲
嵐[illegible]

蔵のたうそ粮うるおをみかまへ
はくくしと祝ちん　兎やふゆもりう

霜月朝日の例を

法人や　嵐風芝　西行　冬こゝろ
新月せゝ　暁いさむ　下郡招
伽ふゝん藻　魚ゝゝ　みきゝ
冬ゝゝ　二月　みちれく　京出　夜
帆の番　紅葉　あゝ　や　堅田のみゝゝ
此木戸や　鎖のゝれく　みゝ月
山ゝ月　森　あゝ　月

人伐ゝん　みゝ　はゝ　みゝ　納涼
みゝ川や　代ちん　すゝ　等の京
住吉あゝ

蓮　新蓮をゝ　ゝ　流　冬の流
悟まれて　ゝ　ゝ　人　乃　堀
立廐
冬指の足下を　かきゝん　ゝ
みゝ来ゝ　蓮山子に　ゝ　鳥　郡
寒雪乃　伐子　む矢　年来　弓
縫ゝ　帝子　いゝん　嵐蓮の冬

雪のしたゝり雪や蔵子夜着
紙子着てわらふ人形もあり　大井川
ゆゝしきかくてもかくてもそちら
目をとゝのをきまく頭巾の浮世
胡麻めし　馬の目くり　つきん哉
あまり出く事ちらよ月や　吳袋頭巾
拵人せんゝめ切とく　火事の那
大町　鈍考
水仙や　鉢はたくの　小嶋臺
多仙百　芋掘分ゆゝ　星ゝ夜

柯亦老人の手向
山茶花や　猫の鈴ゝ　お蓋ゆの
對友
内義の古酒をぬくゝ　室花
囲ゝり　大工めしもり　もろの紙
胡鮮せん妻や　ひくゝ　紫人参
玄賓を世ゝ　見花活ゝ　千菓
庵　反坊　不一　休めゝ　大根ひき
お沙ゝ　先ゝ　大根引
日本の風呂ふきゝ　北殿　山

蜜の刈萱をのしやみうめ蕗
めふけ田舞の小うもと納まる
秘蕨うる弘 鍋花かうや 筋ア汁

文畧

茶の湯ふとうさうめうたけと汁
茶屋の練味噌うき芋配る納豆弐
砧つまてゝ人参蕗えんや納豆汁

遠州三十五日

おうふ弐 はまうぬ 鍋弐 納豆汁
つゝ孫百 兎の耳を引たくゝ

金蕨のおうな迄とうがう霜の声
鬢のゝ白わ木賊ゝ一夜 拾年ゝう
法楽懈の火河ふあゝゝ蕨の夢
貞 伝新宅
此宿を市師もゝゝゝて 杉乃霜
酒ゝゝ紀蒲壺剥 もう白わのゝゝ
妙身童女を葬ゝて
霜の鶏 玉ゝふゝんも 被ゝゝん
宗隆尼ゝみふゝのゝゝのゝ
蕨ゝ逢百ゝのゝゝ 命やせゝの霜

[illegible]の[illegible]乃義法[illegible]樓の[illegible]けるに
鍬[illegible]治年 隠者たりけん 細の[illegible]
[illegible]何とおらうて[illegible]の中
[illegible]の[illegible]かまし[illegible]や 水[illegible]
播物の傳をいふ
栗めしの焦く匂ふや 霜[illegible]
あ[illegible]しかくまとあいそけ[illegible]の蟹
山大を言う眞[illegible]
懷[illegible]白[illegible]の[illegible]の菊
ふきこうれ 柊の[illegible] 七日市

みそ純めも為ふろふ[illegible]
宿僧房
あ[illegible]雨伽の[illegible]冬菜[illegible]
[illegible]次へ[illegible]を[illegible]く 長 栖う[illegible]
武義[illegible]富士の義乃[illegible]
[illegible]へ 洋[illegible]や[illegible]年[illegible]の[illegible]
みう[illegible]れく末[illegible]を祝す
市川三升[illegible]
[illegible]川[illegible]や[illegible]の筋
滝幅や[illegible]の中[illegible] [illegible]

閑侍橋

[illegible]鐙長なる橋はく[illegible]
[illegible]凍や　簀子[illegible]の[illegible]
[illegible]剣付[illegible]
酒賣不許入内[illegible]
[illegible]の綱[illegible]　水[illegible]の[illegible]
柳[illegible]
[illegible]の憲情[illegible]
[illegible]の城乃[illegible]
使者[illegible]　吉野山
[illegible]通[illegible]

父ら医師なれし戯よ
純汁よまく本草のさ形しのれ
河豚あふ水[illegible]下河原
人毒ちと大根[illegible]汁
生姜をふ[illegible]汁
世中不　舅[illegible]　河豚ちる
[illegible]浦[illegible]
[illegible]　細引[illegible]
[illegible]汁や祝言のとに能[illegible]
妻[illegible]　[illegible]小[illegible]

鉄炮[illegible]と[illegible]と[illegible]と汁
[illegible]を切るくいよくしめつし　紙の面
詩　人[illegible]を松江の飯とゆうたん[illegible]
[illegible]まつり沢[illegible]雲[illegible]まつりす雲の飯
麩鱸[illegible]をふりさけ[illegible]ハ厨の那
見伐[illegible]やし[illegible]ひ[illegible]ゆ[illegible]ハ学　鯉
蛎[illegible]きや[illegible]ぬ[illegible]
鯉[illegible]川[illegible]
梅津某秋田へ[illegible]を送り[illegible]
[illegible]呑[illegible]　細代守

細代[illegible]大根ぬ[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]　古簾
大[illegible]豆腐[illegible]甲　松　無
給[illegible]松[illegible]三穂の海
市隅の住人平
宮[illegible]屋[illegible]
負往羽五十[illegible]
[illegible]の昔か[illegible]
霜月廿七[illegible]候千黄門光圀卿之[illegible]茶

真題周山之佳景

硝子の法華屋

水の上に酔ふ龍清水　水茶屋

清水寺音羽

掬猪倉　捐や　ふるさん　雲ちらり

耕作の法華屋

根深刻く　蓑の笠や　阿弥陀子

黒木の法華屋

我や　紛失年　雪　咲　黒木茶屋

藤棚

蓑蕣やあるく秋年やさる不破庇

西行堂

炭や岩間出のしの清ふるさくと

唐橋

長橋や　せくよあひ　ふるる松

八坂の茶乃ふるきを　船くく

坊主かを月ある　清　川　水

河原書院

八子代ゝそ河原　波　市子

西湖

詩を作らんとなりて
右十章
越後屋の雲井樓に登るとて小夜ちとり
啼らんと吟ずるに小夜ハ寒し鹿ゝ許
鄙ゝ子なるとも夜ハ寒し浦ちとり
心をも釜屋ゆゝ敷浦ちとり
浦千鳥ちとり鳴ども大神鳴
去ども撥ゝし投ゝたるとよいとも
ちとり月ゝ和ゝ月ゝ敷きゝ鄙 衛
妹ゝ兄ハ嵐せん足ゝ小夜ちとり

人丸講月次
沖の帆も十八ゝとゝ濱子鳥
水年毛 盞ちよ 鷺の中
十石 鷺 鷺ゝ安ゝ
俺口や ゝ ゝ 池の鷺
夜学感
鷺 水 萩や 蜉蝣 焼盞 羽を閉く
扇屋の ゝ 暗の毛を引 ゝ
聘 毛や 鷺の 食せん
去 ゝ 猪 波の

蒸一重ゝ和ゝ食のぬくゝ鳥
めつゝし鷹ゝゝぬゝ射る紙
家守る人ゝ薬用しく
恵原しゝ紙ゝ切ゝ切雪
町神乗ゝ居ものひゝきとつゝし
ひゝゝ常氏なゝしゝ思ひゝを作く
たきゝゝ多ゝ孫紙ゝんて里神乗
新神乗ゝ鼻息ゝゝき面のゝゝ
ゝ川雪ゝ犬のつゝ出ゝ杉出ゝ垣
神雪牙山小便長何やゝ川垣

智恩院町乗ゝゝゝく
ゝゝ紙ゝゝ笛ゝゝゝ乃妾一のゝ
神雪牙人ものゝゝゝ伏ゝんゝ
ゝ川雪ゝ赤子牙ゝる朝朗
紙雪ゝ雀乃扶持出ゝ小玉品
ゝゝゆきゝ盆乗ゝゝゝなのめ出
神雪ゝゝゝゝねゝゝゝ人ゝ紙
めつゝし牙ゝ俥ゝゝ垣ゝゝ
人ゝ乗ゝゝ新ゝ猪酌
ゝ川ゝゝゝゝ十ゝゝゝ子ゝ酒のかん

或古方くり雪ちんは近へさせの言上ゝ
神雪ゝ行牧や えゝく紙く参るやん
猫の絢童四間平一ゝとの百合の
唐紙うゝ紙ゝを
ゝ川雪和 伊のゝ所ちん 大銅壺
市中閑
はゝの雪や門平 稽あゝ夕ゝれ
雪買ゝ雪ゝを結ゝや 鶏れ雪
清水修行ゝ雪ゝて
ゝの雪の暮の日の気色

雪ゝ日や 船歌ゝの く 歌ちん 色
る士平 美ゝ きゝちゝ 雪の宿
寒山の賛
森る思ゝ門の雪ゝく ゝ食 ゝな
ゝ雪ゝ ゝ 狂し 笠のゝん
門ゝゝ宮を拾く
馬平 炭ゝ ゝゝ八 毎を雪の つ
ゝ術 ちん世流ゝる雪見武
芭蕉ゝを尾を ゝて
義老 蘆 伊ゝ 菴 雪

宮城御普請米就しく諸家庶美
[illegible]
陸奥国朱買臣なり　西方の紬
山茶の侍るよ
雪ぬ浅く猛う茶を煮て太山寺
かも川年ひもとき[illegible]
釈迦とよふ[illegible]も雪の黒木[illegible]

酔吟

雪ふりもとの[illegible]ふ小忌衣
戸隠子の寺を雪と　松ぬこ[illegible]

望厳山

落日ものの大形字拾ふ山の雪
かくしつつ乗田へこの屋る雪れ[illegible]
遊女土佐を[illegible]人よりくめて
黒塚の雪あしらひや閨の雪
[illegible]川[illegible]
半衿の[illegible]も[illegible]や雪れ松
鴨川ぬ鴨を鉄鞭で雪ぬ武
軍兵ぬ岩て[illegible]や雪つ[illegible]
[illegible]雪[illegible]下り[illegible]

前書の字あく雪の句
叡覧の人糸なりけり きふの雪
出口ふく
ちぬくしよ大弦ちらふや 紬化雪
すてゝ行るとふ小雪を白化鶏はして
おりふめや指年さけめや 雪ちれ 猶
腸弦 詰年さけめや 雪ちれ 猶
沼飢屋へ ゆく会佛なり 辰せん雪
文畧
思保せんまくしあそれり雪をんれ

埋木せんぬしみ勝手や 雪の友
雪のほそあるそうれ黒木れ
原二の畑のかひやちゝ雪の侍憲を
ちゝて簡を婦しあるよおりひ
佛号を討ぬへなりのとかく他を無れよ
極めのんく浅間ちゝ雪ぬしいひて
風ふくあ所乃ちりぬふの雪
青漆弦 雪ち 裾形和 九合 狂
冨士ちつあ主 麦田八雪ち 果苗ち
ちちん茶の詩さこて盧全ち雪の日ち

抜出しくゆき打はらふ柄みく紙
雪ちりしろ彩のかまぶ乗まみそさん

秘蔵の鶯の為こ紙をしめる人ま
墨染は 吊や 雪こ川こ紙
紙ちくや月を立うちき 酒の味
雪にちへしかきも蘇鉄の女ちう

雪窓

損料の史記 師走弘前こ自
出し紙 何と紙ちの巻 極
蛛手あへ 師走菊も表こ

大小の喰 元禄十年
大庵を表六ちくこ八カ霜紙走式
茶ちうの小坊主よこて師走表
妖ちこ狐ちり表 紙表紙
不分當春作病夫
酒ゆえし病をちゆこ表ちの式
彩堰ちく食こうの師走ちれ
表かこ紀 報世 略書ちこ式
山陰の表こ紙表こ師走ちの紙
ちこ川かち川表こて絵ちこ紀

ことしく寐覚ハやましきらたくき
伊勢縞をませぬそ海と 鉢敲
あつ川なの筑波ねくゝや寒念仏
寒念佛 拝をこはれて待ちうも
酒飯む 飲酒まいのうかんねかり
南部の中尾ひえ入れ晴
寒さぬや 南大門ある 水の月
並いぬハひえその灘や寒造り
極寒
さためよの遊猜もつまし寒の水

漫成五倫
君臣有義 家の子まゑふをこゝろなき年わすれ
父子有親 鈍汁や惜む姪子もなかりけし
夫婦有別 鉢扣めをとし出ぬもあハぬ世なり
長幼有序 そのかみの娘の子にも舞の跡
朋友有信 君とる揚子ぐの銭の念まさあうれ
極月十四日西吟大坂への船まり
いそくのしや足代ぬ責子ほとうけぬく 山
節季いやつ口銭ささまゑさつらし 宗
元日をを超えやうなり 節季 げ

[illegible]

[illegible]

忠信の芳野[illegible]

[illegible]

[illegible]

鼻紙掃孔雀の玉や煙草もて

[illegible]す

法人の[illegible]踊り

[illegible]

餅[illegible]

[illegible]

[illegible]

震威流火[illegible]

妹の子や薑[illegible]

女子疱瘡[illegible]

餅の形や花雪[illegible]

弱法師[illegible]

[illegible]き市[illegible]夕[illegible]し
鄉[illegible]中[illegible]るとの[illegible]かくれ[illegible]
行雪[illegible]句[illegible]無[illegible]巻油
[illegible]代の[illegible]紙[illegible]番[illegible]神[illegible]帳
[illegible]酔[illegible]房して
[illegible]紙[illegible]を[illegible]
詩[illegible]人 年[illegible] 貪[illegible] 酒[illegible]
いさ[illegible]酒[illegible]の上[illegible]たまり
[illegible]し[illegible]取[illegible]し 俳の[illegible]
[illegible]不唯[illegible]続[illegible]

座右銘

行年や壁よりかけし[illegible]かき
[illegible]略 評定 取[illegible]
[illegible]や 狭道[illegible]の[illegible]
行幸[illegible]年[illegible]
小[illegible]
[illegible]の 夕日[illegible]
[illegible]
千[illegible]
[illegible]中の 放下[illegible] 年の 昏

くしを筑紫弱くて死さしに陸田の田うり
伊賀に[illegible]へおりひの形よりなりなるを
[illegible]てうりの山ぢう人々年中巻八ま
おきまたくに筑紫小文や年の手雅
流るるかふ手 隆房の[illegible]ぬ 垢
[illegible]年九哀世まつりの鬢さへおうな
手の形やひるめむ 鶏の[illegible]の[illegible]
臘兎五ツの子を産り 禁中よやしの
[illegible]年[illegible] 兎の祝へ 敷ぬ 満光

後撰久能の別當さんけめとて面無ひるを
[illegible]年男ぬ 旋すしう
[illegible]の[illegible]笑かの角
三升の鍾馗の自画賛
今年子園十郎や 兎を外
乾元の節分
[illegible]得方 九
[illegible]業平の[illegible]
[illegible]年の眠沉く
[illegible]伯 偏[illegible]
年[illegible]刈

乳母あるて去るとのも美女のしるし
午山宅ゆくよ
刻すそや八乙女祢乐男らゆ
市兵衛より彼戸ちをかくへ
詠のかと前大夏とくわ
大晦日ねのくさうちう
聖代
銘あるくはてをおきよ大晦日

雑之部

十及の図は文畧

尋牛　周ゆ和尚吉京はうう月夜れ
呼牛　呼子ゆ呼ゆ
隠牛　夏のうち霧ぬよ病気の起り
貪牛　仁朱判やうう
廻牛　小便も見不あるる五月ゆ那
番牛　ゆくきる暁傘をかくせう
無牛　きりくす枕ゆ床を子屋弐

羊牛　何と鳴く夕べ夜　隣を少きうり
送牛　はるばるとの子を伯羅尼や嘉の春
老牛　老つもまさうとんぬくれる時の四ツ郎

於冠里公答歌五色梅　黒

思ふやう　ふたたびの　ちりぬ
村　ちりぬ　ときれ　くしや　芳根の松

天智天皇

うちなびきむ入麻ゝ　四海波

下九十八終

東都　萬笈堂　英　平吉　本石町十軒店
文會堂　山田佐助　両国右川町
書林　金養堂　若林半七　高砂町